

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12 ミキハイツ 303 tel/fax03-3755-1603

ラオスのこども通信

28号
2003年7月発行



ヴィエンチャンで開かれた
紙芝居コンクール
(イラスト：やべみつのり)

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会は、

特定非営利活動法人 ラオスのこども になりました。

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会は、昨年より、NPO 法人（特定非営利活動法人）となる準備を進めており、このほど東京都より認証を受け、5月8日、法務局に登記し、「特定非営利活動法人 ラオスのこども」が発足しました。

NPO 法人になると、何が変わる？

今まで任意団体であり、法的には個人扱いでした。

法人化は、自ら事業運営のハードルを上げ、社会的信頼を高めるための取り組みです。

NPO 法人になつたら事業収入は非課税扱い？ 補助金がもらえる？と、よく聞かれます。

法人化で資金面が楽になるわけではありません。むしろ、財政基盤安定のための高い能力が求められます。なおいつそうのご支援を、お願いいいたします。



ラオス初の「ラコンチア・コンクール」

ラコンチアとはラオス語で紙芝居。2003年2月、初のコンクールがヴィエンチャンで開かれ、「作品」と「演技方」の2部門に、小中学生から、高校、大学生、学校の先生、親子など、幅広い参加を得ました。

すてきな太陽さん



■勇気をくれるメディア

中学生の男の子は、色鮮やかな自作の紙芝居を演じ終えると、舞台の上でぽろぼろと涙を流しました。人々の視線を浴びながら演じ、感極まつたのでしょうか。会場を暖かい空気が包みました。

青少年育成に取り組むPADECTの代表、ソンバットさんは、「紙芝居は、子どもに表現の勇気を与えてくれるメディア。人前で自分の意見を言えなかったラオスの子どもには、とてもいい」と指摘します。日本からの審査員として、紙芝居の専門家、堀田穣、長野ヒデ子、やべみつのりの各氏に協力を得ました。

子どもたちの作品を紹介します。

【すてきな太陽さん】お母さんがご飯を作ろうしたら、マッチがないことに気がついた。窓の外を見ると、真っ赤に燃えた太陽さんが、ちょっと火を貸してくれた。ありがとう。

【不思議な水】お父さんのしゃっくりが止まらない。お母さんは辛いものを食べて口の中が火事。でも大丈夫、ぼくが用意してあげた水で、どっちも解決。

【だれの仕事?】学校の水道の水がポタポタたれてる。それに気づいたバケツくん。「ねえ、スプーンくん、水がたれてるよ」。でも、スプーンくんは「ぼ



くの仕事じゃないよ」と行ってしまいました。ヒシャクくんに声をかけても、誰に声をかけても、みんな「ぼくの仕事じゃないよ」。バケツくんは、はたと気づきました。「あっ、ぼくの仕事だ」。

目の付け所、表現力に驚くばかりです。

■意欲的な先生たち

今まで小学校への紙芝居の普及は、なかなか進みませんでしたが、今や教育省が教材としての活用に関心を高めています。

現場の先生たちは、紙芝居を授業に取り入れたことで、「子どもが授業を楽しみに学校に来るようになった」「衛生教育、ゴミを捨てない、人を思いやるなど生活指導について子どもの理解がよくなつた」と語り、意欲を示しています。 (森 透)

Data 応募作品のテーマ (全94作品)

教材 (算数や生活指導など)	: 57
衛生 (蚊、ゴミなど)	: 12
昔話	: 10
環境問題 (森林保護など)	: 8
ドラッグ (麻薬、タバコなど)	: 7

この事業は住友財団、京都学園大学より支援を受けています。

第2回絵本コンクールと編集の研修

第2回絵本コンクールに58作品が寄せられ、03年2月、ヴィエンチャンで審査が行われました。審査員は作家のドゥアンデュアン、編集者のブンタン、オートン、画家のブンルート、福音館書店の編集者の井上博子の各氏。前回は、民話の絵本作品を募集し、審査はラオスと日本の2段階で行いました。

今回は、民話に絞らず短編の創作とし、絵が得意でない人にもチャンスがあるようにと文章のみの応募も受けつけました。また、日本の編集者がラオスに赴き、アドバイザーとして審査そのものを研修とする試みをしました。

応募の結果は絵本は6作に留まり、残念ながら出版の候補となる水準ではありませんでした。他の52作は文章のみだったのでラオス人審査員だけで審査。入選作を1冊にまとめて出版することとしました。

テーマは麻薬問題、森林保護、教育の大切さなどが多く、中には寓話に託してラオス社会を痛烈に

批判した作品もありました。審査員の声は、「教訓を垂れるのみで、文芸性に欠ける」という感想が多く占めました。創作の壁は高いことを知らされた結果であり、今後、どのようなコンクールとするか、課題を残しました。

井上さんを講師とする編集の研修は、夜の部も行われ、学生、作家、翻訳家、記者、TV局、出版・販売、出版局、博物館の職員など17人が参加しました。

編集者の仕事はなかなか理解されにくく、校正や進行管理と思われるがちです。そこで、作家の発掘に始まり、よりよい作品とするために、作家の創作力を引き出すようにいかに仕向けるかなど、編集という仕事の大切さが語されました。

(森 透)

この事業は今井記念海外協力基金より支援を受けています。

子どもの権利と子ども文化センター

■参加する権利

「子どもの権利条約」って知っていますか？1989年国連総会で採択され、日本も1994年に批准しました。大人だけでなく子どもも一個の人格を持つ権利の主体であり、保護される対象という「子ども観」を離れ、子どもは自らに関わる全ての決定に参加できるとしています。

子どもの権利として代表的なものに、1.生きる権利 2.育つ権利 3.守られる権利 4.参加する権利、があげられます。このうち参加する権利が「子ども参加」として、子どもに関わる活動をしているNGOにより、大きなキーワードとなっています。

これまで、子どもに関わるNGOでも、プロジェクト立案にあたり、当事者の子どもたちの意見をきいたり、プロジェクト推進の中心に子どもたち自身の活動

をおくことは少なく、おとなたちの意見で、全てを取り仕切っているのが普通でした。子どもの権利条約の精神にのっとると「このやり方は違うのではない？」「当事者の意見を聞かないのは民主的なあり方ではないのでは？」という疑問が出てくるのです。

私たちは、ラオスの子どもたちの教育環境の改善を、子どもの人権の視点から考えようとしていますが、子どもたちの直の声を聞くこと、運営に子どもたちを参加させることは未だできていません。

■社会からの期待は、ますます大きく

子ども文化センター活動は今年で10年目を迎えました。現在、会が直接支援している6か所を含め、ラオス全国19か所で活動が展開されています。

6月、ヴィエンチャンで活動状況の報告と問題点な

どを話しあう会議が2年ぶりに開かれました。参加者は、会が支援をしている6か所の運営責任者、各県の教育委員会、情報文化局担当者、国立図書館スタッフなど30名ほど。研修を含め、3日間、朝8時から夕方まで続きました。

<会議で明らかになったこと>

- ☆来館する子どもの数が6か所合計で3,600名／週にも増えた。スペースが足りなくなっている。
- ☆麻薬などの社会問題から子どもたちを遠ざける手段（放課後の過ごす場所を提供する）として、行政の期待は大きい。
- ☆政府は、全ての県に1か所ずつ設置する意向で、郡レベルで開設を進める新たな方針を打ち出した。
- ☆数年前から始まった青少年ボランティア活動（夏休みに地方に出かけ、読み聞かせやゲームなどをを行う）が、さらに活発になっている。

一方、問題点は——

- ☆スタッフ、講師の経験、能力が充分でなく、同じ内容の繰り返しで子どもたちが飽きる。
- ☆講師が教員である場合、学校の都合で休む。
- ☆本、教材が全く足りない。

また、解決策、要望は——

- ☆スタッフ、講師の研修。専従講師の増強。
- ☆会で支援が充分でないスポーツを強化。
- などが挙がりました。

会が提供する予算は、「先行4センターは漸次削減し、新設センター育成に向ける」という、2年前の会議で話された方向が再度確認され、政府、地方政府から予算を獲得する努力を重ねることになりました。

■子ども参加は、すでに日常化

驚いたことがあります。

「子どもの権利条約」を、すでに各センターでは学んで活動の基本としており、「子ども参加」を実践している、という報告が続いたことです。

ラオスで「子どもの権利条約」がどの程度認知されているのか、「子ども参加」はどの程度実行されて

いるのか？これまで充分な情報は得られていませんでした。

ところが、2年ほど前からユニセフラオスが資金提供し、各センターで権利条約の認知活動を行い、その結果、青少年ボランティア（センターを卒業した高校生以上で組織）が中心になって、条約の精神を人形劇にしたり、お話しにしたりして、田舎に普及のためのキャンペーン活動に何回も出かけているというのです。

活動プログラムでも、子ども参加が日常的に行われていることも分かりました。例えば伝統音楽や舞踊の発表会があると、演目を何にするかなど、今は、参加する子どもたちが話し合いで決めているそうです。さらに先生の教え方に問題がある時などは、子どもたちからクレームがきっちと上がると言っていました。

これにはビックリしました。ラオスではまだそこまでいっていないと頭から思いこんでいたことに反省をしました（まだまだラオスの情報を充分に把握できていません）。

■「自分の意見を言う」という成果

子どもたちの「話し合い」で活動を決めることが、すでに定着している。これは、私たちがセンターに期待してきた、自分の意見を表現できる子どもを育てることが実現しあげていていることを意味します。この新しい流れをセンターだけに止めず、ラオス社会へ広めるには、「子ども参加」の成果を具体的に示す必要があります。

また、ラオス側のニーズに合わせ、子ども文化センター活動を、より広い地域に拡げることも考えねばなりません。

2年前の会議で、ラオス側の参加者が子ども文化センター活動を「自分の問題」として捉えるようになったことに、変化を感じました。そして今回、活動が子どもたちの「参加」の中で、新しい段階となってきたことを感じました。この先に待ちかまえる「自立」をどう支援するか、それがこれから会のテーマになりそうです。

（野口 朝夫）

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会 2002年 活動報告書

(法人化前の活動報告です)

1 この1年

この1年は、運営の組織化、効率化を目指す「法人化」へ向けた話し合いと、現地プロジェクトの効率化をはかる「JICA開発パートナー事業」の準備作業に明け暮れたといえます。そのため、この数年の傾向である、民間財団や企業からの支援の減少をくい止める活動、新規支援者の開拓などについて、充分には実行できませんでした。

しかし、話し合い、とりわけ「組織運営」についての討議の積み重ねにより、ボランティアの結束が強まり、国内イベントがボランティア主導で成果を上げることができるなど、充実した年でもありました。また「開発パートナー事業」の準備、外部各種研修への積極的な参加などにより、プロジェクトの論理的な分析、判断の訓練を積むことができました。

さらに、ラオス事務所の働きが安定することにより、現地で獲得したプロジェクト支援が、件数、金額とも過去最高となったことは、特記すべきことでしよう。

2 現地プロジェクト

●出版

この数年、作品の「質」を高めることに力を入れてきたため、発行に至るまで時間がかり、出版点数が増えない状況が続いていました。しかし、成果は徐々にあらわれ、出版資金を獲得出来たことにより、今年は、以下のように、この6年間で最多の8作品45,775冊の図書を出版することができました。昨年より準備してきた、民話絵本コンクールの優秀作品3点や、日本人作者以外の海外作品の翻訳版など、これまでにない多様な作品を出版できました。

△ラオス出版委員会

ノウハウを蓄積し、将来は出版社として自立することを意識して設置したラオス出版委員会は、昨年同様、出版候補作品の選定の他、海外作品の翻訳、「民話絵本コンクール」で入選した作者への指導を行いました。これらの活動は、多様な種類の図書をラオス社会に紹介することにつながりました。

02年度 出版図書リスト

作品名	作者名	部数	主な支援者
△創作絵本			
ほくを捨てないで 楽しいリサイクル工作絵本	カンカーブ作 セーングン絵	5000部	Canada Fund
シナーとユウ 絵本コンクール作品 モン族の民話	ヴィンマイ作絵	5000部	キヤノン株
トゥーノイヤー 絵本コンクール作品 モン族の民話	ウッタイ作 ヴッティ絵	5000部	地球市民財団
孤児と魔法のドラ 絵本コンクール作品 ビエンチャンの由来	テップヌハック作 ヴォンサヴァン絵	8600部	地球市民財団指定募金
△再版図書			
賢いのはどっち 改訂版 初版1996年	フンアルン作 ブーゲン絵	5000部	沖電気工業株式会社「OKI 愛の募金」
正しく走ろう 改訂版 初版1990年	ウティン作 セーングン絵	5000部	連合「愛のカンパ」 地球市民財団
孤児と歌うキツネ 改訂版 初版1993年	タリヴィアン／ドゥアンドゥアン作 ヴォンサヴァン絵	6475部	Canada Fund 生活クラブ「アジア草の根助成金」
△海外翻訳図書			
星の王子さま	サンテグジュペリ シーサリヤ訳	6000部	世田谷南ロータリークラブ キッコーマン株式会社

▽紙芝居専門家派遣

学校現場などで教材として紙芝居の普及を促すことを目的とし、ラオスの担い手を育成するため「紙芝居セミナー」の実施を計画。現地で紙芝居普及活動を積極的にすすめる、参加型開発研修センター(PADECT)と協力し、2月にヴィエンチャンで6日間にわたり開催しました。日本から、やべみつのりさんと堀田穣さんを派遣。ラオスからは、紙芝居づくりと普及活動を実践している15名が参加。講義形式ではなく、双方が意見を出し合うものとしていました。

支援：住友財団

京都学園大学

●読書推進運動

ラオス国立図書館の読書推進運動に協力し、図書箱や図書袋に図書を詰めて全国の小学校へ届けるプロジェクトを、1992年より継続してきました。12月には、JICA(国際協力事業団)とASPBとのパートナーシップによる、開発パートナー事業「ラオスにおける読書推進運動支援プロジェクト」がスタートしました。これまで手がけてきた本プロジェクトを、日本の政府開発援助(ODA)の資金を使い、3年間にわたって、さらに広範に行います。

当初、9月からスタートする予定でしたが、プロジェクトの骨子をまとめ上げるのに、多くの時間を要しました。よって、当初予定していた図書箱・図書袋の配付と図書補充は、12月から03年3月の間に集中して実施することになりました。

読書推進活動の自立(ラオス人による活動推進)を目的とし、ハードからソフトへと質の転換を図るために研修を強化。昨年より開始した教育監督官(一定の地域内の教育現場の指導をする)のセミナー参加、教員養成校でのセミナーも継続。全体でシステムを整備するという考え方が現地側にも理解され、各機関も積極的に協力態勢を整えています。

▽図書袋製作・補充図書購入・配付

ラオス事務所で、ドイツやカナダなどの団体からの、次のような受託事業を実施しました。近年、このような協力依頼が増えています。これまでの現地での地道な活動が浸透し、評価されている結果と思われます。

・図書袋の製作と配付(チャンパサック県)

GAPE Project

・出版した子ども向け図書の配付(全国)

CANADA FUND Project

・配付用図書セットの購入(指定学校へ配付)

WORLD VISION LAO Project

▽教員養成校での研修

読書推進活動の質を高めるため、まず先生の卵から、その意義を伝えようと、昨年よりスタートした事業です。

3年計画の2年目にあたる今年は、全教員養成校(8校)で卒業年次生全員を対象に、各4日間にわたり実施。また、各校でのセミナーに先立ち、研修の講師を養成する講座を、ヴィエンチャンで開催。各校で講師となる図書館司書や教員を集め、ヴィエンチャンにて5日間に渡りセミナーを実施しました。これは、事業が自立していくための取り組みの一つです。

次年度は、この研修が本格的にカリキュラム化されます。それに向けて、テキスト作成の準備も行いました。

支援：国際開発救援財団(FIDR)



▽学校図書室

愛読を意味する「HakArn（ハクアーン）」と呼ばれ親しまれているこの活動は、児童・生徒数が多い比較的都市部の小中高等学校で、空き教室を利用して、図書と読書用の机椅子などを整備、読書推進活動のノウハウを提供する事業です。本年は、小学校5校、中学高校7校の計12校で開設されました。

- ・ヴィエンチャン市×4 ・サイヤブリ県×3
- ・サワンナケート県×3 ・チャムパサック県×1
- ・ウドムサイ県×1

また、これまで開設支援をしてきた図書室71か所に、図書補充を行いました。

これで会が支援して開設された学校図書室ハクアーンは、83か所となりました。

支援：外務省N G O補助金
ベルマーク教育助成財団
キヤノン株式会社
若林地所株式会社
指定募金

▽開発パートナー事業

- 02年度（12月～03年3月）の事業は以下の通り。
- ・図書2タイトル計10000冊出版
 - ・図書箱250箱・図書袋100袋を製作し、
5県の計300校へ配付
 - ・補充用図書を2県44校へ配付

●子ども文化センター（CCC）

学校教育では、あまり行われていない情操教育の場として「子ども文化センター」を開設、運営支援をして8年。昨年から、CCC活動が政府により積極的に認知、重視され始めたことにより、現在全国で19ヶ所で活動がおこなわれています。

当会ではそのうちのヴィエンチャン、ボリカムサイ、サイヤブリ、ルアンパバーン及び、ゲンタオ市（サイヤブリ県）、シーサタナークCCCの6ヶ所で、運営費と図書補充費を支援しています。

	来館者数／日		図書室利用者数
	平日	土日	
ボリカムサイ	80	100	60
サイヤブリ	150	200	45
ルアンパバーン	80	100	35
ヴィエンチャン	50	65	60
ゲンタオ		35	35
シーサタナーク	35	65	45

各センターでは、絵画・伝統音楽・伝統舞踊・歌・ゲーム・編み物・織物・英語・演劇・木彫・工作・粘土・人形劇・スポーツ・料理・彫刻・詩・読み聞かせなどの講座が開かれています。活動は中学生までの子どもたちが参加していますが、卒業した子どもたちが、年下の子どもたちの活動をサポートしたり、郊外の学校へキャラバンを組んで出かけ、センター活動を広げる役割を自発的に行う動きも定着してきました。

支援：国際ボランティア貯金
(株)ミクプランニング
指定募金

▽ルアンパバーンCCC建物補修

70年ほど前に建てられた屋根の下地が腐り、雨漏りするようになったため、補修計画を作成した。しかしさるに腐食が広がり、現地見積額が再三変更されるため、修繕は2002年度に行うことになりました。

支援：A C Aーアクア

▽青少年活動

各CCCでは、これまで様々なプログラムを経験して育った青少年たちによる、ボランティア活動が盛んに行なわれています。日常活動の補助の他、週末や夏休みの時期を利用して、スタッフ比率のもと、10人程度のグループで各県内の地方へ出向き、CCC活動の体験をしてもらうプログラムを積極的に実施しています。指導者の立場となることで、青少年たちが自信を深めるとともに、自分達で内容を工夫しあう姿もみられるようになっています。

▽ニュースレターの発行

CCC活動を広報するため、各センターでのニュースレター発行を継続的に支援しています。センターによっては、子どもたちが中心となって執筆しているところもありますが、発行頻度やその制作方法にはばらつきが見られます。また、安定的な資金確保をしてゆく必要があります。

▽ラジオ番組制作

ヴィエンチャンにて、毎週土日（うち1回は再放送）に、読書推進を中心とした活動に関する番組を制作し、ラジオで放送。CCCに来ている子どもたちによる民話の語りやインタビューなどが折り込まれています。

■ その他の活動

▽事業調整派遣

各事業調整のため、会の費用による2002年度の派遣は以下の通り行われました。

- 01年12月19日～1月19日：赤井朱子
教員養成校セミナー・フォローアップセミナー調整
- 2月19日～3月6日：赤井朱子
紙芝居セミナー 調整
- 6月14日～20日：チャンタソン
MOU調印式・CCC館長会議・テキスト作成
会議調整
- 12月30日～03年3月18日：近藤知子
JICA開発パートナー事業調整
- この他、2月～3月、8月、11月、チャンタソン
が現地に出張した際、事業調整を行っています。

▽受託事業

特定目的のための受託事業が行われました。

- ・コープかながわスタディツアーレンタル
- ・和光石原奨学金 教員養成学校生徒対象

▽国内事業

日本国内においては、各種イベントに参加

し、活動紹介や物品販売をおこないました。参加イベント回数は、これまでで最高、計12回（うち会主催が2回）となりました。

3 会の運営

これまで、会の活動を考える際、現地プロジェクトについては、長い時間をかけて話しあわれても、組織運営そのものについては、充分に話しあわれることがなく、問題点の改善方策を充分に練ることもない傾向がありました。しかし、NGOとしての責任の意識、ラオス政府のNGO対応の変化などから、1年以上にわたる話し合いの結果、法人格を取得するとともに、積極的な組織運営をおこなうことが、決意されました。

■ ラオス事務所

▽来日会議

12月7日～13日、ラオス事務所スタッフのソンペットとボーケオが来日し、現地事業について、具体的な話し合いを行いました。これにより、ラオス事務所と東京事務所で、事業方針や問題点などについて共有することができ、また、その後のプロジェクトの実施運営がスムーズになりました。

また、活動報告会や法人設立総会に出席し、支援者と直接交流することができました。

▽スタッフ7名・アルバイト1名体制

一昨年雇用した定期アルバイト1名をスタッフとし、ラオス事務所スタッフは7名となりました。事務局責任者ソンペットを中心に、それぞれの役割・責任範囲を明確にしたことにより、事業運営や実施状況の報告などのシステムが、少しずつ整いはじめました。また、各自の業務の反省を年に1回行ない、東京事務所に書類提出することも定着してきました。

▽資金獲得

Canada Fund を始めとし、現地でいくつかのプロジェクト助成金を獲得することができました。また、当会の活動の噂を聞き、他の団体や個人、現地の学校などから、地域への図書袋配付や図書室開設指導など様々な依頼が来るようになり、実際にいくつかの事業を実施することができました。これらは、これまでの地道な活動の成果であり、今後の現地化へ向けての大きな一歩と言えるでしょう。

▽事業立案

現地裁量で使用できる予算を拡大。少額の支援依頼に対し、迅速に対応することが可能になりました。また、徐々に、現地で計画を立案することができるようになってきました。一方で、責任者の判断に委ねられていることからくる、権力集中の問題があります。

■ 東京事務所

▽運営

法人格（特定非営利法人）の取得に向け準備をすすめ、新名称や定款作成など話し合いを重ね、ようやく、12月7日に設立総会を実施することができました。

昨年8月よりNGO専門調査員として活動に加わり、組織強化および東京・ラオス事務所の統合的マネジメントについての提言を行ってくれた近藤知子が、4月よりスタッフとなり、JICAとの開発パートナーシップ事業の契約に向けて準備を進めました。

さらに、12月末より、近藤がラオス事務所に駐在することに伴い、新スタッフの雇用を計画。12月より、藤沢佳代が加わりました。

専門調整員支援：(財)国際協力推進協会

▽ボランティア

イベントボランティアの参加が、近年着実に増

え、またイベントでの留学生との共同も増加しています。ボランティア主催のイベント開催、ボランティア主体によるイベント参加など、新しい活動の方向が少しづつ実現しました。

▽絵本2000冊運動

1999年からスタートした、指定絵本に翻訳を貼り付けてラオスに送るこの運動も、徐々にその数を増やし、ようやく目標であった累計2000冊を送ることができました。個人や学校など、地方からの絵本リスト請求も多く、また、企業の社員向けボランティア体験講座として実施される回数も増え、身の回りでできる国際協力活動として関心は高まっています。



大田区立梅田小学校での6年生全員による
2000冊運動ボランティア活動

▽対外活動

昨年より、事務局長 森透が外務省NGO研究会、教育協力ネットワーク研究会に、事務局長代理 野口朝夫がJANIC-UNICEFの『南』の子ども支援NGO能力強化委員会および、『南』の子ども支援NGOネットワークに係わるなど、会の活動を越えた、NGO全体の能力向上活動に関係するようになってきています。

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会

2002年度 収支報告書 (2002.1.1 ~ 2002.12.31)

当期収入は、目標数値とした予算を大きく下回り、前年度とほぼ同額であった。前年と比べ、イベント収入や一般寄付金は増えたものの、指定募金は大きく減少。プロジェクト援助金では、政府系の比率が大きく増し、民間財団や企業などが減った。これは開発パートナー事業を開始するまでの準備や、新規イベント、法人化へ向けた準備に時間がかかり、対応が必要な部分に事務

局の労力をさけなかったことによると思われる。

一方支出は、前年度を300万円ほど上回った。その内訳は、前年からの繰り越し実施分の多い事業（出版）、資金の確保は充分でなかつたが、取りやめることのできない事業（教員養成校、CCC）、新規雇用に伴い増した人件費と事務経費（両事務所）などである。結果、収支差額は大きなマイナス数値となった。

	予算	決算	摘要
■前期より繰越	5,000,000 円	6,868,014 円	プロジェクト準備金
■収入の部			
一般寄付	4,500,000 円	4,049,553 円	のべ 381件(うち10万円以上の寄付者は以下の通り) 出雲大社教・富士ゼロックス株端数クラブ・安田海上火災㈱ちきゅうくらぶ・(財)豊島福祉基金・相本真理子(恵泉ラオス会)・自治労町田市職員労働組合
プロジェクト援助金	20,000,000 円	15,636,160 円	アナイナウ ア.政府系助成金 合計(¥8,526,798) 国際協力事業団開発パートナー事業・郵政事業庁国際ボランティア貯金・外務省NGO事業補助金・Canada Fund イ.民間財団・基金 合計(¥5,309,362) (財)国際開発救援財団・(財)ベルマーク教育助成財団・(財)住友財団・公益信託今井記念海外協力基金・ACAーアクア・(財)東京国際交流財団・GAPE ウ.企業・団体 合計(¥1,800,000) 三井住友銀行㈱「ボランティア基金」・キヤノン㈱・沖電気工業㈱「OKI 愛の募金」・日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」・キッコーマン㈱
指定募金	4,000,000 円	542,467 円	絵本印刷31件・図書袋(現地受取)・補充図書1件・子ども文化センター5件・学校図書室1件・スタッフ人件費3件・運営支援・紙芝居寄付
特別プロジェクト		921,172 円	和光石原奨学生・特定小学校・図書室支援寄付、出版配布図書譲渡
イベント収入	6,500,000 円	4,544,170 円	各種イベント協力料、会費寄付及び売上など
雑収入	500,000 円	396,228 円	紙芝居売上・物品売上、預金受取利息など
口収入合計(B)	35,500,000 円	26,089,750 円	
■支出の部			予算の換算レート:\$1=¥135
●出版			
a 図書出版	9,585,000 円	4,519,198 円	a + b + c + d
図書印刷費	6,709,500 円	3,623,729 円	
環境教育の絵本 出版費	5,467,500 円	3,465,860 円	新刊4作品 改訂版3作品 翻訳1作品 計45,775冊
著作料・レイアウト費	675,000 円	0 円	次年度出版予定
通信費	567,000 円	157,869 円	計8作品(次年度印刷分含む)
b 出版委員会	758,700 円	229,528 円	
ラオス出版委員会	526,500 円	145,932 円	委員への交通費・人件費支払／タイ研修は次年度
図書資料費・コピーデ	183,600 円	0 円	資料購入は実施できず／コピーデは記録費へ合算
通信費	48,600 円	83,596 円	国内・国際郵送料(書留料金) 出版事業該当分
c 紙芝居	1,451,250 円	665,941 円	
セミナー現地開催費	276,750 円	243,488 円	2月ヴィエンチャンで実施 教材費・参加者交通費
専門家・調整スタッフ派遣費	1,127,250 円	422,453 円	専門家2名を派遣・調整員の派遣費は発生せず
紙芝居編集費・報告書作成費	47,250 円	0 円	紙芝居編集及び報告書印刷は次年度実施
d 絵本コンクール	665,550 円	0 円	03年2月に実施

●読書推進運動	17,727,120 円	8,686,013 円	e + f + g + h + i
e 図書箱 図書袋	4,063,500 円	839,016 円	
図書袋・補充図書購入配付費	3,577,500 円	726,596 円	現地での受託事業(GAPE/CANADA FUND/WVL)
フォローアップ費	486,000 円	112,420 円	1月シェンクワン県にて実施(前年度計画分)
f 教員養成校	3,658,500 円	2,998,183 円	
トレーナー養成講座開催費	553,500 円	366,174 円	各校講師への研修を実施／テキスト印刷は次年度
読書推進セミナー開催費	3,105,000 円	2,632,009 円	全国の教員養成校8校でセミナー開催
g 子ども文庫 学校図書室	3,060,720 円	2,387,998 円	
図書室新規開設費	877,500 円	1,750,989 円	資材整備・図書購入・セミナー開催 小5校/中高7校
図書教材購入費(フォロー)	1,809,000 円	325,573 円	既設72ヶ所へ図書補充／教員養成校は実施できず
子ども文庫スタッフ人件費	244,620 円	311,436 円	子ども文庫管理スタッフ 3名
子ども文庫家賃	129,600 円	0 円	ラオス事務所家賃に合算
h 読書啓蒙雑誌発行費	216,000 円	44,252 円	
i 読書推進運動 統括管理	6,728,400 円	2,416,564 円	
通信費	48,600 円	157,903 円	プロジェクト該当分 國際通信
現地事業担当スタッフ人件費	105,300 円	214,018 円	現地プロジェクト担当スタッフ 1名
事業担当・管理調整員人件費	5,548,500 円	1,350,000 円	東京事務所担当1名／現地駐在1名は12月より実施
車メンテナンス料	162,000 円	93,770 円	事業調整のための車維持費
調査・調整派遣費	864,000 円	600,873 円	東京より出張2名／ラオスより来日2名
●JICA開発パートナー事業	3,615,007 円		12月より事業開始
派遣諸費・人件費	907,680 円		業務従事者 計2名
一般現地業務費	298,228 円		消耗品費・機材修理費・図書出版経費・現地傭人費
図書袋・箱製作・資機材購入	2,409,099 円		100袋／250箱製作費の一部・コンピューター1台
*本事業は申請中だったが、2001年12月末時点では未決定であったため、予算には計上しなかった			
●子ども文化センター(CCC)	5,013,900 円	4,297,010 円	
CCC 運営費(6ヶ所)	3,742,200 円	2,966,224 円	スタッフ人件費 教材費・事務経費・図書購入費など
ルアンパバーン 建物補修費		772,721 円	建物腐食部分の補修費
普及活動費	243,000 円	31,194 円	県内の地方での活動費・ニュースレター発行費
会議・調整費	256,500 円	20,709 円	館長会議を開催(6月)・事業調整訪問は実施できず
現地プロジェクト人件費	291,600 円	166,218 円	現地事業担当スタッフ1名・中央CCCスタッフ2名
調査・調整派遣費	432,000 円	260,992 円	東京メンバー現地出張1名(01年12月～1月実施)
通信費	48,600 円	78,952 円	本プロジェクト分 通信費
●特別実施プロジェクト	3,847,500 円	3,007,518 円	
特別受託事業費	1,012,500 円	485,643 円	和光石原奖学金・スタディーソーー受入経費
国内事業 イベント経費	1,890,000 円	1,926,360 円	イベント経費 材料費、頒布品仕入
広報費	742,500 円	488,464 円	ニュースレター発行 パンフレット・封筒印刷
プロジェクト予備費	202,500 円	¥107,051 円	現地事務所運用分(軽微な修理や図書室整備等)
●事務経費	3,689,450 円	4,580,072 円	p + q
p 東京事務所経費	2,735,000 円	3,076,809 円	
事務所経費	480,000 円	480,000 円	家賃 水道光熱費含む
通信費・運搬費	132,000 円	155,588 円	郵便代・国内外電話(事業該当分除)・国内外運搬費
事務経費	212,000 円	313,974 円	事務用品費・記録費・リース料・備品消耗品費
人件費・出張費(国内)	1,836,000 円	1,820,945 円	有給スタッフ1名・法定福利費・交通費・国内出張費
諸会費・研修費・会議費	50,000 円	79,120 円	JANIC正会員年会費・研修会参加費・会議室使用料
雑費	25,000 円	227,182 円	差益差損・送金手数料・寄付金・支払手数料等
q ラオス事務所経費	954,450 円	1,503,263 円	
事務所家賃	81,000 円	211,381 円	家賃該当スペース分(文庫・倉庫含む)・水道光熱費
通信費	48,600 円	67,513 円	郵便代 国内外電話(プロジェクト該当分除)
事務経費	176,850 円	242,126 円	事務用品費・記録費・備品消耗品費・交際費・修繕費
人件費	567,000 円	714,918 円	マネージャー・会計担当計2名、スタッフ7名交通費
雑費	81,000 円	267,325 円	差益差損・送金手数料・MOU調印関連費・諸会費等
口支出合計 (C)	39,862,970 円	28,704,818 円	
□当期収支差額 (B)-(C)		-2,615,068 円	
□次期繰越金 (A)+(B)-(C)	637,030 円	4,252,946 円	

特定非営利活動法人 ラオスのこども 2002年度、2003年度

「ラオスのこども」の2002年度とは、成立した2003年5月8日より同年6月末までを指します。

事業計画

ラオス人主体の持続的な事業運営をめざす。担い手の発掘、人材の育成とともに、資金調達の現地化を促し、持続可能なしくみづくりを進める。

日本では、経営能力の強化、組織運営体制の確立と参加の拡大を図り、経営を立て直す。

●出版

- ・「絵本コンクール」優秀作品（3点）、子ども向け図書（4点）の編集、出版。
- ・「紙芝居コンクール」優秀作品（2点）出版。
- ・出版図書の選定・編集を担う「ラオス出版委員会」の運営を支援。

●読書推進運動

- ・図書箱（270箱）、図書袋（180袋）の製作。小学校（360校）への配付、図書担当教員向け研修。
- ・既配布校を対象に、図書補充と利用状況の調査（8県460校）。
- ・教員養成校「読書推進カリキュラム」開始。各教員養成校の司書による講座の支援。テキスト（試用版3500部）の作成、配付。
- ・空き教室を利用した、学校図書室の整備（小学校4校、中学高校4校）。
- ・出版委員会の編集による読書啓蒙雑誌の発行。
- ・事業管理の日本人駐在1名、派遣2名。

●子ども文化センター

- ・「子ども文化センター」（6か所）の運営支援。講師、スタッフの人物費、教材費など運営経費を支援。支援額は現地と協議の上、段階的に減らす。
- ・各館長、スタッフによる合同会議を開催。センターの運営方針、将来の支援を協議。

●交流広報事業

- ・日本で、ラオスや当会の活動への理解と交流を促進するイベントを開催。会報の発行。

予算

2002年度（2003年5月8日～2003年6月30日）

I 収入の部	単位：円
一般寄付金	1,500,000
指定募金	1,500,000
民間一般助成金	2,200,000
政府系補助金・助成金	6,700,000
交流広報事業	700,000
「ASPBラオスの子どもに絵本を送る会」からの繰入金	1,000,000
雑収入	150,000
当期収入合計	13,750,000
収入合計	13,750,000

II 支出の部	
1. 事業費	9,024,375
出版	940,625
読書推進	6,138,125
子ども文化センター支援	1,486,250
交流広報	459,375
2. 管理費	878,500
東京事務所経費	721,000
ラオス事務所経費	157,500
3. 予備費	300,000
当期支出合計	10,202,875
当期収支差額	3,547,125
次期繰越収支差額	3,547,125

2003年度（2003年7月1日～2004年6月30日）

I 収入の部	単位：円
一般寄付金	4,500,000
指定募金	2,500,000
民間一般助成金	10,000,000
政府系補助金・助成金	35,400,000
交流広報事業	4,500,000
雑収入	500,000
当期収入合計	57,400,000
前期繰越収支差額	3,547,125
収入合計	60,947,125

II 支出の部	
1. 事業費	51,486,875
出版	7,490,000
読書推進	37,026,875
子ども文化センター支援	3,407,500
交流広報	3,562,500
2. 管理費	3,395,000
東京事務所経費	2,735,000
ラオス事務所経費	660,000
3. 予備費	1,650,000
当期支出合計	56,531,875
当期収支差額	868,125
次期繰越収支差額	4,415,250

ヴィエンチャン事務所から

子どもたちと先生と図書活動

03年2～5月、小学校で先生と子どもたちに聞き取り調査をしました。ヴィエンチャン特別市と4県の42校で実施。読書推進活動の成果や課題が改めて見えてきました。

■ラオス語、恐い？

小学校での休み時間。子どもたちに、ラオス事務所のスタッフが「サバイディー（こんにちは）」と声をかけました。

そのとたん、子どもたちは一目散に逃げ、硬い表情で遠巻きに私たちを見つめっていました。ヴィエンチャン県の山間部、生徒のほとんどが少数民族です。ふだん民族固有のことばを使っている彼らには、ラオス語で話しかけられるのが恐かったようです。スタッフが歌や手遊びと一緒にしているうちに、輪は少しずつ小さくなっていました。子どもたちに笑顔が戻ってきました。

子どもたちにとって、ラオス語は学校でしか使われないことば。覚えなければ先生に怒られることばです。先生に聞くと、1、2年生はラオス語の勉強に苦労している、とのこと。

おもしろいラオス語の本をたくさん読んで、先生の読み聞かせを聞いて、ラオス語への恐怖感を払拭してほしい。山を下りればラオス語で意志を伝えなければならないのだから、と思いつつ学校を後にしました。

■名案！ 図書カゴ

職員室がない、カギのかかる部屋がない。そうした学校はめずらしくなく、先生は、図書箱が盗難に遭わないようにと、家で保管していることがあります。重い図書箱を学校に運ぶのは大変。それで、せっかく配付した本も、あまり活用されなくなってしま

うことも。

でも、カンムアン県で、興味深いものを見つけました。大きな竹の図書カゴ。これに20冊ほど入れて教室や屋外に持つていき、読書の授業。軽いので先生の負担になりません。子どもたちも「今日はどんな本かな？」と楽しみにしています。

本が活かされるのは工夫次第。このような事例を集め、今年の配付セミナーで紹介して、先生の間でアイデアを共有しようと思っています。

■やはり大切。セミナー、本の補充

初めて本が配付される学校と思って訪問したところ、以前配布されたけれど、破損や紛失で再度要請をしていた、という学校も目につけました。

本が渡されただけの学校は概して本の傷みが早く、配付して1年で破れたりバラバラになったりした本が数多くありました。

やはり、配付時のセミナーの重要性を改めて感じました。多くの子どもたちに読み継がれるために、本を大切に扱うように現場の先生に伝えるとともに、本を補充していくシステムの重要性を関係者が理解することが大切だと思いました。

■先生の生活費

給与は低く、その給与すら遅配が続く。校長先生や図書担当の先生への聞き取りを通して、先生をとりまく困難な状況が浮き彫りになりました。

生活をしていくためには、野菜や手芸品、織物などを売って、収入を得なければなりません。ですから、昼休みはいったん家に戻り、終業後もすぐに帰るのです。そうなると、授業時間外の図書の閲覧や貸出はできなくなります。

先生の熱意だけではどうにもならない。学校ぐるみで読書に対する理解を深め、読書活動を盛り上げていく体制が必要だと感じました。

*今回の調査は、JICA（国際協力事業団）との開発パートナー事業の一環です。

（近藤知子）

今年も盛況！ サバイディ・ピーマイ・パーティ 2003

- 今年のキャッチフレーズは、「ラオスは4月がお正月 おいしく食べて国際協力」。
- 小雨にもかかわらず、182名（参加者147名、ボランティア35名）の方にお越しいただきました。収益金約55万円は活動資金として活用させていただきます。
- 神奈川の紙芝居文化推進協議会のコンクール優秀賞・教育画劇賞受賞作品「しあわせなカエル」（トンミー絵・原作）の脚色・監修をされた蛤谷糸美さんによる上演、写真家の川口正志さんのラオス写真展も行いました。
- 会場・厨房は東京ガス株式会社に、飲み物は

アサヒビール株式会社に提供いただきました。
どうもありがとうございました。



ラオスの学生が舞踊を披露してくれました。

ボランティア掲示板

おいしい料理のため、妥協はできません。

次は、あなたが！

料理の手伝いをしました。ピーマイパーティの本格ラオス料理は一番期待されるところもあり、責任重大です。メニューは早々とできあがっていました。見ると、ココナツゼリーやラープ、クレソンのサラダなど、お馴染みのものもあれば、どんな料理になるか楽しみなものもあり、期待で胸が膨らみます。

前日は、ひたすらタケノコを切り、キノコを切り…といった作業。何しろ、100人以上の料理を作るのだから材料も半端じゃありません。单调だったりもしますが、なかなかに楽しい時間でした。ボランティア同士でおしゃべりしたり、留学生にラオス語を教えてもらったり、情報交換の場となるからです。

今年は大使館のパーティと重なって留学生も少なく、ちょっと寂しい感じでしたが、作業が減るわけではなく、おいしい料理のためにも、妥協はできません。魚のスープから骨や頭を除き、

ハーブを適量分けて。大人数でお鍋に向かい、どたばたと、その日は過ぎていきました。当日、お肉が足りなかつたり、そうめんのお鍋をぶちまけたり（私が…）と様々なアクシデントがありつつも、パーティのはじまっていいる会場に何事もないように料理が並べられていきます。私もレンテン族の民族衣装を着て料理を運び、パーティも楽しみました。

民族衣装に興味津々の若い女性や、ラオスについてあれこれ質問してくる男性とおしゃべりをしました。裏方で仕事をしているだけでも十分に充実していたのですが、お客様の様々な反応に触れたことは、イベントの達成感をさらに大きくしてくれました。私の手伝いでも、こんなにも盛大なパーティの一部分を作っているのだと思い、本当に嬉しかなりました。

（長峰由紀子）

★ 国 内 で の 活 動 ★

●子どももおとなも「絵本2000冊運動」

絵本にラオス語訳シートを貼って送る運動です。3月11日、大田区梅田小学校では授業で行われ、140冊を6年生が届けてくれました。

4月16日、住友商事(株)の一般公開セミナーで、チャンタソンによるラオスの話とともに行われ、約50名の方によって60冊が完成。それぞれ、ラオスに送られました。

●NGOとこんなにちは！NGO屋台村

1月18、19日、(財)札幌国際プラザの主催で、札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」にて行われたイベントに出展。留学生のレーくんを含めたボランティア5人が札幌へ。絵本貼り体験コーナーでは札幌聖心女子学院の高校生も参加。ラオス人と接する機会の少ない札幌で人気者のレーくんは、初めての雪を楽しんでいました。

●組織強化の研修に参加

JANIC(国際協力NGOセンター)と日本ユニセフ協会による「南」の子ども支援NGO能力強化研修(運営委員長・野口朝夫)が2月13日より開催され、当会は5名が参加。現在、研修を踏まえ、財政基盤強化に取り組んでいます。

●教育協力のガイドライン

当会が参加するJNNE(教育協力NGOネットワーク)の研究会は、02年度の報告書で「NGOの教育協力のガイドライン」をまとめました。途上国でよりよい教育を実現するために、どのような協力をしたらよいかの配慮をまとめました。近日、外務省のホームページでも公開される予定です。

辞書のお礼

ヴィエンチャンの語学学校シーホームビタヤーに辞書をお願いしましたところ、多数お寄せいただき、ありがとうございました。

無料で配っては大事に使ってもらえないと考え、安くとも買ってもらい、そのお金で学校に備える本を買わせていただきますことを、この場を借りまして、ご報告申し上げます。

チャンタソン インタヴォン

ぜひ、ご参加を！

これから予定！

●麻布十番納涼祭り「国際バザール」

8月22日(金)～24日(日)/東京・港区、一の橋親水公園(地下鉄大江戸線・南北線「麻布十番」下車)。おふくろの味「ミーカティ」、ぜひお試しを。

●総会のお知らせ

「特定非営利活動法人 ラオスのこども2003年度総会」

8月17日(日)13:30～/ライフコミュニティ西馬込(地下鉄・都営浅草線「西馬込」下車)

参加ご希望の方は事務所までご連絡ください。

Tokyo & Vientiane

[東京事務所]

2003年

1月11～12日 「大阪ワンワールドフェスティバル」講演・出展

18～19日 「札幌NGO屋台村」出展

28日 大田区梅田小学校でラオスの話

2月27日 「大田区ボランティア体験セミナー」受講
生受入開始

3月 5日 「大田区国際人権フォーラム」講演

11日 大田区梅田小学校「ラオス語絵本作成」体験授業

27日 JANICで第3回NGOガイド実行委員会

4月 16日 住友商事(株) ラオスの話とラオス語絵本作成

20日 サバイディーピーマイパーティ

24日 「大田区第1回国際交流懇談会」参加

5月 8日 特定非営利活動法人登記

[ラオス事務所]

1月 9日 ノンドゥアン中高校Hak Arn(学校図書室)82
開設／支援：三井住友銀行

10日 ノンブアトン中学Hak Arn 83開設／支援：三井住友銀行

28～30日 ルアンパバーンで「子ども文化センター・フェスティバル」

2月3～7日 ヴィエンチャン県読書推進セミナー(以下S)、配付対象校調査(以下R)

11～14日 (S) (R) ヴィエンチャン特別市、サインブン特別区

19日 絵本制作セミナー

22～23日 紙芝居コンテスト

25～26日 ガリ版紙芝居制作セミナー

26日 絵本コンテスト審査

26～3/1日 (S) (R) フアパン県

28日 ヴィエンチャン市内全Hak Arn図書補充セミナー

3月 2～7日 (S) (R) チャンパサック県

4月 21～25日 (S) (R) カンムアン県

5月 6～9日 (S) (R) サワンナケート県

12日 ホアイホン小学校Hak Arn 86開設式／支援：関山仲夫

02年度読書推進セミナー振り返り会議